

EU



## 1 農・畜産業の概況

2020年1月31日に英国がEUを離脱して以降、加盟国は27カ国となり、20年の農用地面積は国土全体の約4割となる1億5511万ヘクタール、農業経営体数は907万戸、1戸当たり農用地面積は17.1ヘクタールとなった（表1）。

23年の農業生産額5148億2347万ユーロのうち、畜産は約4割に相当する2147億2836万ユーロとな

り、EU農業の主要部門となっている（図1）。畜産の内訳を見ると、生乳が754億3096万ユーロ（農業全体の14.7%）、牛肉が364億2097万ユーロ（同7.1%）、豚肉が485億506万ユーロ（同9.4%）、卵・家きんが435億1696万ユーロ（同8.5%）となっている。

表1 主要農業経済指標

国名／区分	農用地面積	農業労働人口	農業経営体数	1戸当たり農用地面積	農業生産額
	(千ヘクタール)	(千人)	(千戸)	(ヘクタール)	(百万ユーロ)
	2020年	2020年	2020年	2020年	2023年
ベルギー	1,368.1	53.7	36.0	38.0	11,758.8
ブルガリア	4,564.2	182.8	132.7	34.4	5,243.6
チェコ	3,492.6	95.4	28.9	120.8	7,105.0
デンマーク	2,629.9	60.1	37.1	70.9	12,565.5
ドイツ	16,595.0	462.7	262.8	63.2	74,237.3
エストニア	975.3	16.8	11.4	85.8	1,275.2
アイルランド	4,499.0	160.8	130.2	34.6	11,444.5
ギリシャ	2,822.9	563.6	530.7	5.3	15,109.0
スペイン	23,913.7	827.5	914.9	26.1	65,972.7
フランス	27,364.6	717.6	393.0	69.6	92,383.2
クロアチア	1,231.5	161.6	143.9	8.6	2,781.1
イタリア	12,041.2	869.1	1,130.5	10.7	63,395.9
キプロス	134.1	20.3	34.1	3.9	895.7
ラトビア	1,969.0	67.3	69.0	28.5	1,735.4
リトアニア	2,914.6	112.9	132.1	22.1	3,914.1
ルクセンブルク	132.1	3.6	1.9	70.3	564.1
ハンガリー	4,921.7	245.7	232.1	21.2	11,394.2
マルタ	9.8	4.7	7.7	1.3	134.0
オランダ	1,817.9	158.2	52.6	34.5	38,573.5
オーストリア	2,602.7	99.0	110.8	23.5	9,568.4
ポーランド	14,749.2	1,395.8	1,301.5	11.3	36,758.6
ポルトガル	3,963.9	314.4	290.2	13.7	12,096.4
ルーマニア	12,762.8	1,178.7	2,887.1	4.4	19,832.7
スロベニア	483.4	71.1	72.5	6.7	1,580.7
スロバキア	1,862.7	42.9	19.6	94.9	2,768.6
フィンランド	2,281.7	57.0	45.6	50.0	4,936.5
スウェーデン	3,005.8	54.3	58.8	51.1	6,799.1
EU27カ国	155,109.6	7,997.3	9,067.5	17.1	514,823.47

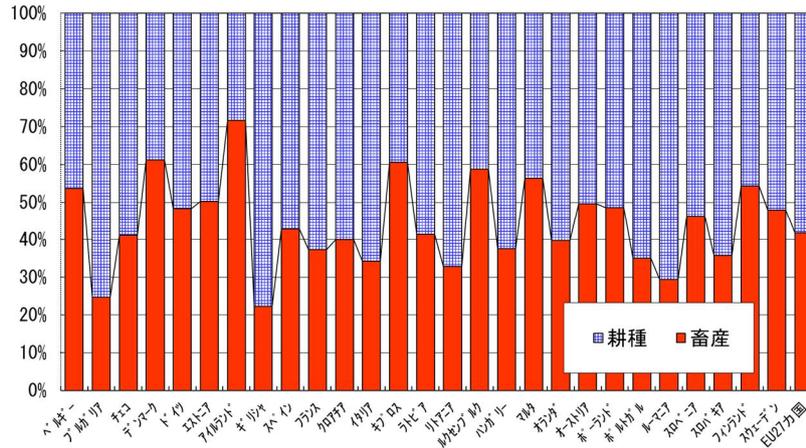
資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：EU27カ国の農用地面積、農業経営体数は、各国の数値の合計。

注2：1戸当たり農用地面積は、農用地面積および農業経営体数から算出。

注3：農業労働人口は、年単位で直接雇用された農業労働者の人口。

図1 農業生産額に占める畜産の割合（2023年）



資料：欧州委員会「Eurostat」

## 2 畜産の動向

### (1) 酪農・乳業

2023年のEU（加盟27カ国）の生乳出荷量は、全世界の2割弱を占めている。また、米国農務省（USDA）によると、23年のEUのチーズの輸出量が世界の乳製品貿易において占める割合は、4.6%と半数近くを占めた。同じくバターは28%、脱脂粉乳は32%となった。14年8月のロシアによるEU産農畜産物の禁輸措置により同年および15年のチーズ輸出量は減少したが、輸出を他の地域に振り向けることで16年以降は13年以前の水準を超え増加傾向で推移している。

EUでは、15年3月末の生乳生産割当（クオータ）制度廃止を契機として生乳の増産傾向が続いていた中で、中国の需要減速の影響から域内の乳製品需給は著しく緩和した。これに対して欧州委員会は、15～17年にかけて脱脂粉乳の公的買い入れを実施したほか、16～17年には生乳出荷削減奨励事業や域外への輸出拡大などを奨励し、需給の改善を図った。なお、公的買い入れによる脱脂粉乳の在庫は19年6月末までにすべて売却された。

需給の改善に伴い19年から上昇傾向を見せていた生乳生産者価格は、20年に入ると新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により下降した。21年は好調な乳製品輸出を受け生乳生産者価格は年間を通じて上昇を継続した。22年の乳製品輸出は減少した

ものの、生乳生産者価格は過去最高を記録した乳製品価格や、COVID-19の規制解除による域内の消費需要の回復などから、22年末まで上昇を継続した。

#### ア 主要な政策

##### (ア) 乳製品の公的買い入れ

EUは、バターおよび脱脂粉乳の公的買い入れを通じた価格支持により、間接的に生乳生産者価格を支持している。ただし、公的買い入れを行うに当たっての介入価格は、2003年の共通農業政策であるCAP改革<sup>(注)</sup>に基づき、段階的に引き下げられている。

品目別に見ると、バターは各年3月1日～9月30日の間、市場価格が介入価格（100キログラム当たり221.75ユーロ：参照価格の90%）を下回った場合、加盟国の介入機関を通じて一定規格の製品の買い入れが検討される。ただし、当該年の公的買い入れ数量が限度数量の5万トンに達した場合は、入札により買い入れが実施できることとされている。

また、脱脂粉乳は各年3月1日～9月30日の間、市場価格が介入価格（100キログラム当たり169.80ユーロ）を下回った場合、加盟国の介入機関を通じて一定規格の製品の買い入れが検討される。ただし、当該年の公的買い入れ数量が限度数量の10万9000トンに達した場合は、入札により買い入れが実施できることとされている。

脱脂粉乳の公的買い入れは15～17年にかけて行われ、その後、19年6月末までにすべての在庫が放出された。バターについて10年以降公的買い入れは行われていない。

(注) 2003年のCAP改革では、介入価格が引き下げられた代償に酪農分野では行われていなかった農家への直接支払いが導入された。なお、08年からは生産とは切り離れた単一の直接支払いとなっている。

(イ) 民間在庫補助 (調整保管)

2014年以降のCAPでは、バター、脱脂粉乳およびチーズを対象に、大幅な価格の下落など欧州委員会が必要と認めた場合、一定量の在庫を一定期間保管する業者に対し、保管経費の補助を行うことが決定された。

14～17年に民間在庫補助の対象となった品目は、脱脂粉乳約18万4000トン、バター約30万6000トンとなった。さらに、20年はCOVID-19対策として、3年ぶりに民間在庫補助が実施され、脱脂粉乳1万8300トン、バター6万3324トン、チーズ3万9184トンが対象とされた。

(ウ) 生乳生産割当 (クォータ) 制度

EUは、1984年以降、加盟国ごとに生乳生産量の枠 (クォータ) を割り当て、クォータを超過した場合、一定額の課徴金を課すとともに、加盟国内の農家間での売買などを認める生産割当 (クォータ) 制度を実施した。

同制度は2008年11月に合意した「ヘルスチェック」 (CAPの中間検証作業) に基づき、15年3月末で廃止され、需給に応じた生産が可能となった。

(エ) 輸出補助金

CAPの下で、例外的に輸出補助金の使用が認められているものの、2010年以降はすべての乳製品で輸出

補助金の発動はない。

(オ) 域内消費の促進

乳製品に関連した補助として、牛乳やチーズなどを対象に学校給食用消費などに対する補助が行われている。

イ 生乳の生産動向

(ア) 酪農経営体数

EUの酪農経営体数は、経営環境の悪化や大規模化などを背景に小規模層を中心に減少傾向にあり、2020年は前回調査 (16年) から31%減少の83万戸となった (表2)。また、1戸当たりの経産牛飼養頭数は前回調査から37%増加の25頭となった。

表2 酪農経営体数、乳用経産牛飼養頭数および1戸当たりの経産牛飼養頭数の推移

(単位：千戸、千頭、頭/戸、%)

区分/年	2010	13	16	20	増減率
酪農経営体数	1,719	1,463	1,191	826	▲ 30.6
経産牛飼養頭数	21,467	21,652	21,634	20,522	▲ 5.1
1戸当たり経産牛飼養頭数	12.5	14.8	18.2	24.8	36.8

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：経産牛飼養頭数は、各年12月末現在のもの。

注2：経営体数調査は、2010、13、16、20年に実施されている。

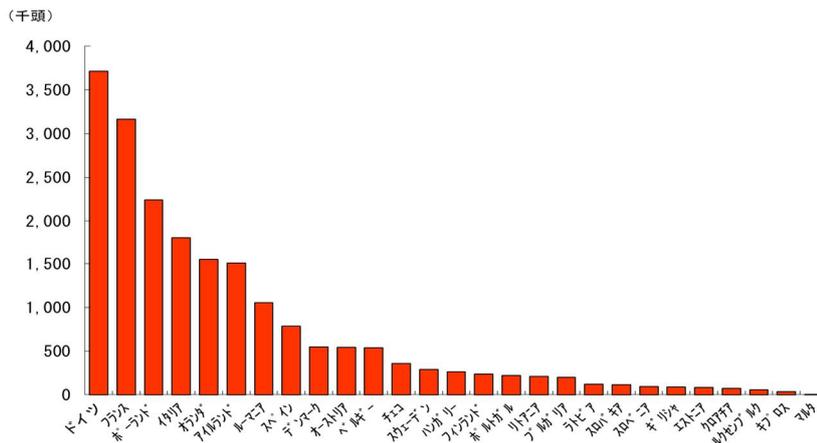
注3：EU27カ国の数値。

(イ) 飼養頭数

経産牛飼養頭数は、2016年以降、環境規制への対応から減少傾向にあり、23年は前年比0.8%減の1991万頭となった。

国別では頭数の多い順に、ドイツ371万頭、フランス317万頭、ポーランド224万頭、イタリア181万頭、オランダ155万頭、アイルランド151万頭となり、これら6カ国でEU全体の約7割を占めた (図2)。

図2 乳牛飼養頭数 (2023年12月)



資料：欧州委員会「Eurostat」

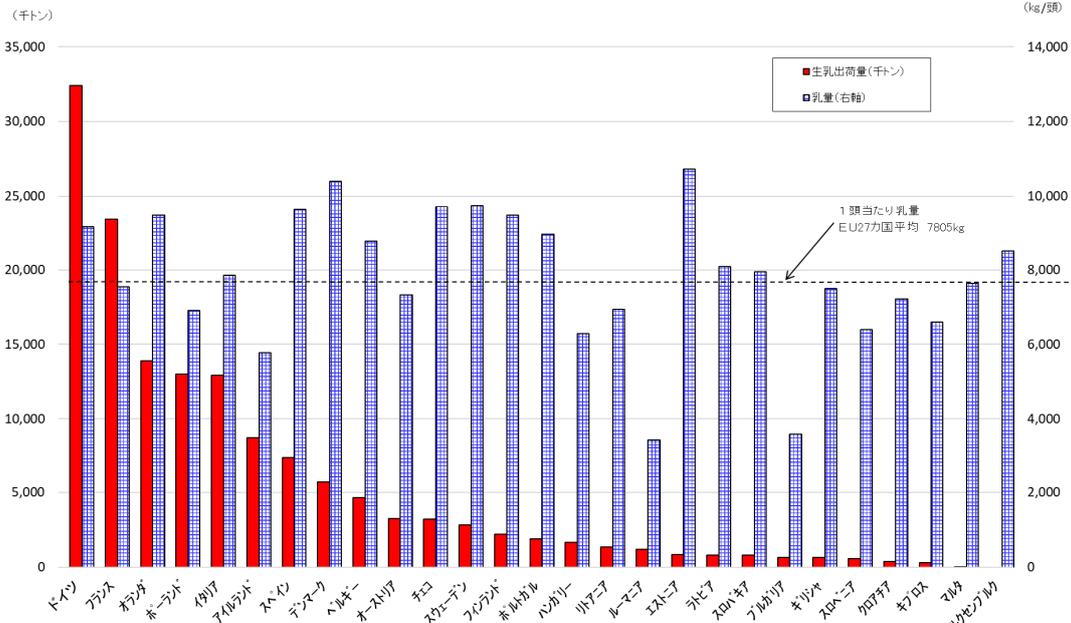
(ウ) 経産牛1頭当たり乳量

2023年の経産牛1頭当たり乳量は、7805キログラムとなった。ただし、第1位のエストニアが1万728キログラム、第2位のデンマークが1万400キログラムであるのに対し、下位のブルガリア、ルーマニアはそれぞれ3000キログラム台となっており、加盟国間で差は大きい(図3)。

(エ) 生乳出荷量

2023年の生乳出荷量は、1億4467万トンとなった。国別では出荷量の多い順に、ドイツ3242万トン、フランス2342万トン、オランダ1389万トン、ポーランド1300万トン、イタリア1291万トン、アイルランド871万トンとなり、これら6カ国でEU全体の生産量の約7割を占めた(図3)。

図3 生乳出荷量および経産牛1頭当たり乳量(2023年)



資料: AMI「Markt Bilanz Milch 2025」

ウ 牛乳・乳製品の需給動向

(ア) 飲用乳

2023年の飲用乳(乳飲料、ヨーグルトなどを含む。以下同じ)生産量(販売量)は2350万トンで、1人当たり消費量は平均50.7キログラムとなった(表3)。

(イ) バター

2023年のEUのバター生産量(バターオイルを含む)は、219万トンと世界の生産量の約2割を占めた(表4)。主な生産国はドイツとフランスであり、この2カ国でEU全体の約4割を占めた(図4)。同年の生乳出荷量は前年並みとなったが、夏の気候が安定していたことから平均乳脂肪分が前年を上回り、バターの生産量が増加した。

23年の域外輸出量は29万トンと前年をかなり大きく上回った。生産量の増加により価格が比較的安定し、輸出競争力が高まったことが寄与したとみられる。輸出

先別に見ると、EUから離脱した英国向けが最も多く、米国、サウジアラビア、中国向けと続いた。

表3 1人当たり年間飲用乳消費量の推移

(単位: kg/人、%)

国/年	2019	20	21	22	23	増減率
ベルギー	42.0	45.8	43.4	40.9	39.5	▲ 3.4
ブルガリア	17.4	18.5	19.8	19.1	-	-
チェコ	59.7	58.5	57.7	56.1	56.7	▲ 1.1
デンマーク	77.0	78.4	74.2	68.3	65.8	▲ 3.7
ドイツ	49.5	50.0	47.0	46.9	46.2	▲ 1.5
ギリシャ	46.7	43.8	42.9	41.1	-	-
エストニア	66.6	66.2	64.8	64.1	-	-
スペイン	67.8	72.2	68.7	68.7	61.5	▲ 10.5
フランス	42.4	45.8	43.8	41.3	41.9	▲ 1.5
アイルランド	112.2	109.4	104.6	101.4	98.6	▲ 2.8
イタリア	43.2	46.0	45.8	45.9	45.3	▲ 1.3
クロアチア	74.2	71.0	67.5	71.4	-	-
ラトビア	43.4	41.2	41.0	36.8	36.6	▲ 0.5
リトアニア	37.1	42.2	39.8	37.9	36.6	▲ 3.4
ハンガリー	54.9	56.1	54.3	53.4	53.4	0.0
オランダ	39.7	43.5	44.6	41.5	37.6	▲ 9.4
オーストリア	74.4	75.1	70.1	70.4	66.9	▲ 5.0
ポーランド	49.2	51.6	51.1	51.3	49.5	▲ 3.5
ポルトガル	62.2	64.4	59.0	59.6	-	-
ルーマニア	18.0	19.3	22.1	20.7	-	-
スロバキア	45.4	50.0	46.9	44.3	43.8	▲ 1.1
フィンランド	103.8	99.6	98.4	91.7	88.3	▲ 3.7
スウェーデン	68.6	67.6	65.5	64.0	61.3	▲ 4.2
英国	96.8	-	-	-	-	-
EU平均	56.3	51.5	51.0	50.8	50.7	▲ 0.2

資料: AMI「Markt Bilanz Milch 2025」

注1: 2023年は暫定値。

注2: EU平均は、2019年までは英国を含む28カ国、20年以降は英国を除く27カ国の平均消費量。

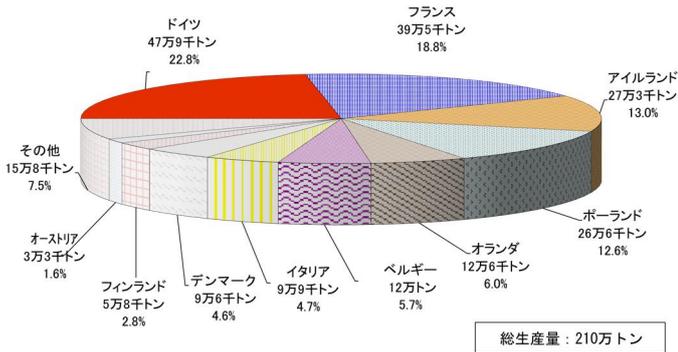
表4 バター需給の推移

(単位：千トン、%)

区分/年	2020	21	22	23	増減率
生産量	2,219	2,180	2,128	2,194	3.1
うち乳業工場	2,197	2,157	2,101	2,171	3.3
農家	22	23	27	23	▲14.8
輸入量	48	46	69	53	▲23.2
輸出量	312	262	253	287	13.4
在庫量(12月末)	135	135	150	150	0.0
域内消費量	1,955	1,964	1,929	1,960	1.6

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2025」  
 注1：生産量にはバターオイルを含む。  
 注2：2023年は暫定値。

図4 バターの国別生産量(2023年)



資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2025」  
 注：EU27カ国。

23年のバター消費量は196万トンとなり、1人当たり消費量は4.4キログラムとなった(表5)。国別ではフランス(8.2キログラム)、デンマーク(6.6キログラム)と消費が多い一方、オリーブ油など植物油脂の消費が多いスペイン(0.3キログラム)やイタリア(2.1キログラム)などは少ない。

表5 1人当たりバター消費量の推移

(単位：kg/人/年、%)

国/年	2019	20	21	22	23	増減率
ベルギー	1.6	1.8	1.7	1.5	1.4	▲6.7
ブルガリア	1.1	1.3	1.4	1.4	-	-
チェコ	5.5	5.8	5.4	5.1	4.9	▲3.9
デンマーク	6.9	6.8	7.6	8.8	6.6	▲25.0
ドイツ	5.8	6.3	6.0	5.6	5.6	0.0
ギリシャ	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-
エストニア	4.2	3.7	3.3	3.7	-	-
スペイン	0.3	0.4	0.4	0.3	0.3	0.0
フランス	8.3	8.0	7.9	8.2	8.2	0.0
アイルランド	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	0.0
イタリア	2.6	2.3	2.4	2.1	2.1	0.0
クロアチア	1.6	1.4	1.9	1.7	-	-
ラトビア	3.5	3.8	3.9	3.6	3.9	8.3
リトアニア	4.7	5.7	5.8	4.9	5.7	16.3
ハンガリー	2.3	2.6	2.7	2.8	2.6	▲7.1
オランダ	2.8	1.8	1.8	1.7	1.7	0.0
オーストリア	5.6	5.3	5.4	5.4	5.3	▲1.9
ポーランド	5.1	5.5	5.8	5.2	5.5	5.8
ポルトガル	2.1	2.2	2.1	2.5	-	-
ルーマニア	1.1	1.3	1.3	1.2	-	-
スロバキア	3.1	4.0	4.3	4.3	4.2	▲2.3
フィンランド	3.3	3.3	3.0	3.1	3.0	▲3.2
スウェーデン	2.8	2.9	2.9	3.0	3.1	3.3
英国	3.0	-	-	-	-	-
EU27/28カ国	4.3	4.4	4.4	4.3	4.4	2.3

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2025」  
 注1：2023年は暫定値。  
 注2：2019年までは英国を含む28カ国、20年以降は英国を除く27カ国。

(ウ) 脱脂粉乳

2023年のEUの脱脂粉乳生産量は、154万トンと世界の生産量の約3割を占めた(表6)。主な生産国はフランスとドイツであり、この2カ国でEU全体の約5割を占めた(図5)。また、域内の消費量は83万トンであった。

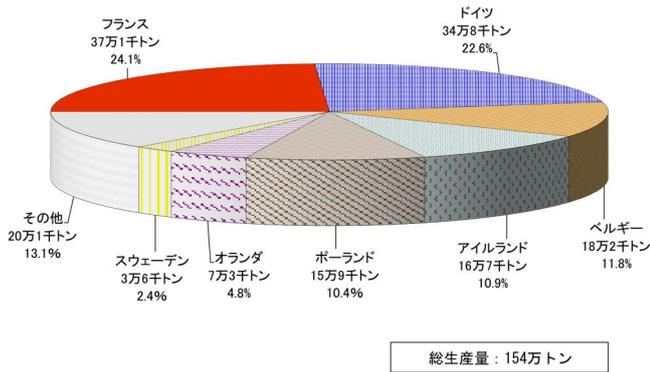
表6 脱脂粉乳需給の推移

(単位：千トン、%)

区分/年	2020	21	22	23	増減率
生産量	1,626	1,539	1,623	1,538	▲5.2
輸入量	36	32	36	36	0.0
輸出量	831	788	707	775	9.6
介入在庫量(12月末)	0	0	0	0	-
域内消費量	831	803	892	833	▲6.6

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2025」  
 注：2023年は暫定値。

図5 脱脂粉乳の国別生産量（2023年）



資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2025」

注：EU27カ国。

脱脂粉乳については、低迷した需給の改善を目的に15年7月～17年9月に行われた公的買入により、介入在庫が17年末に約38万トンまで積み上がった。その後、需給の改善に伴い16年12月から在庫の売り渡しが始まり、19年6月末には在庫量はゼロとなった。

23年の脱脂粉乳の生産量は、輸出需要の増加を背景とした脱脂練乳の生産量の増加により、前年を下回った。一方で、輸出市場においては、競合する米国の生産量の減少からEU産への需要が高まり、北アフリカや中東および東南アジア向けを中心に輸出量が前年を上回った。結果として域内消費量は前年を下回った。なお、中国向けは、同国の脱脂粉乳生産量の増加などにより、前年を大幅に下回った。

(エ) チーズ

2023年のEUのチーズ生産量は1112万トンと、世界の生産量の約5割を占めた(表7)。主な生産国はドイツとフランスであり、この2カ国でEU全体の約4割を占めた(図6)。同年は、平均乳固形分の増加に加え、需要が堅調に推移したことから、前年比1.5%の増加となった。また、同年のチーズ価格は、前年下半期の減産を背景とした急激な上昇から一転し、生産量の増加もあり第2～4四半期にかけて比較的安定した。

表7 チーズ需給の推移

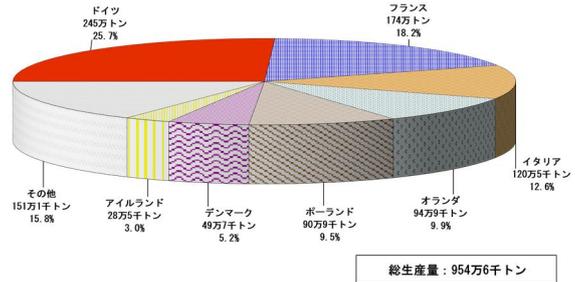
(単位：千トン、%)

区分/年	2020	21	22	23	増減率
生産量	10,796	11,001	10,958	11,121	1.5
うち乳業工場(生乳原料)	9,254	9,426	9,398	9,546	1.6
農家(生乳原料)	624	603	627	637	1.6
その他(生乳原料)	919	972	933	938	0.5
輸入量	223	196	187	174	▲7.0
輸出量	1,402	1,385	1,327	1,386	4.4
域内消費量	9,921	10,152	10,194	10,228	0.3
1人当たり消費量(kg)	22.2	22.8	22.9	22.8	▲0.4

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2025」

注：2023年は暫定値。

図6 チーズの国別生産量（2023年）



資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2025」

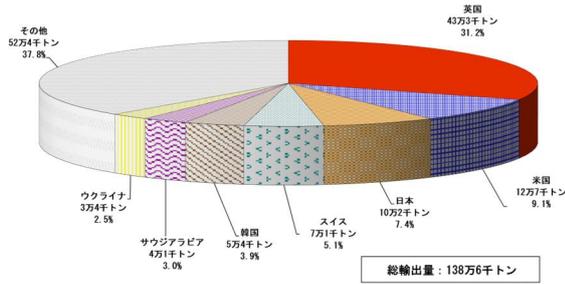
注1：EU27カ国。

注2：生産量のうち乳業工場生産分。

23年の域外輸出量は139万トンとなり、主な輸出先は英国(43.3万トン)、米国(12.7万トン)、日本(10.2万トン)、スイス(7.1万トン)であった(図7)。同年は、チーズ生産量の増加やチーズ価格が比較的安定して推移したことから、前年を4.4%上回った。輸出先別に見ると、英国やスイス向けは前年を上回る一方、米国や日本向けは、インフレによる価格高騰や為替相場の変動の影響もあり、前年を下回った。

チーズの域内消費量は増加傾向にあり、23年は1023万トン、1人当たり消費量は22.8キログラムとなった。しかし、加盟国間でかなりの差があり、フランス(27.7キログラム)、フィンランド(26.0キログラム)などが多い一方、スペイン(7.4キログラム)、ハンガリー(12.8キログラム)などは少ない(表8)。

図7 チーズの輸出先（2023年）



資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2025」  
注：EU27カ国。

表8 1人当たりチーズ消費量の推移

(単位：kg/人/年、%)

国/年	2019	20	21	22	23	増減率
ベルギー	14.8	14.4	14.9	14.6	14.4	▲1.4
ブルガリア	16.6	16.4	17.1	17.0	-	-
チェコ	18.8	19.4	19.4	18.5	18.2	▲1.6
ドイツ	25.1	25.3	25.3	25.0	24.4	▲2.4
ギリシャ	24.0	24.1	25.2	26.1	-	-
エストニア	25.3	24.6	25.6	26.2	-	-
スペイン	7.6	8.6	7.6	7.3	7.4	1.4
フランス	25.1	27.6	27.3	27.3	27.7	1.5
アイルランド	-	17.4	21.1	18.6	13.1	▲29.6
イタリア	23.5	22.8	21.7	20.7	21.1	1.9
クロアチア	14.4	13.5	14.9	15.6	-	-
ラトビア	21.0	21.5	22.1	22.3	22.9	2.7
リトアニア	21.8	22.5	23.9	23.6	23.5	▲0.4
ハンガリー	13.2	13.8	13.1	11.4	12.8	12.3
オランダ	25.5	26.8	24.7	24.4	25.3	3.7
オーストリア	23.3	23.9	23.2	23.1	24.1	4.3
ポーランド	18.2	18.4	18.9	18.9	20.3	7.4
ポルトガル	13.4	12.6	13.4	14.1	-	-
ルーマニア	8.6	9.1	9.7	10.0	-	-
スロベニア	15.9	15.7	16.2	16.0	-	-
スロバキア	14.6	14.7	16.4	14.3	14.2	▲0.7
フィンランド	25.6	25.5	25.8	25.4	26.0	2.4
スウェーデン	19.1	19.7	19.4	19.0	19.1	0.5
英国	12.0	-	-	-	-	-
EU27/28カ国	20.8	22.2	22.8	22.9	22.8	▲0.4

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2025」

注1：2023年は暫定値。

注2：2019年までは英国を含む28カ国、20年以降は英国を除く27カ国。

## エ 生乳および牛乳・乳製品の価格動向

### (ア) 生乳生産者価格

EUの生乳生産者価格は、クォータ制度下にあった2013年末をピークに、その後の生乳生産量の増加などから乳製品需給が緩和したことで下落した。しかし、輸出の拡大などによる需給の改善などから17年以降は堅調に推移している。23年の生乳生産者価格は、前年の飼料や燃料などの資材価格や乳製品価格の高騰を背景とした上昇後、引き続き堅調な価格水準を維持しているものの飼料など資材価格の下落や乳製品価格の下落に伴い、前年

比6.5%安の100キログラム当たり46.96ユーロとなった(表9)。

表9 生乳生産者価格の推移

(単位：ユーロ/100kg、%)

国/年	2019	20	21	22	23	変動率
ベルギー	33.05	31.30	36.46	53.24	42.69	▲19.8
ブルガリア	30.42	31.56	33.40	43.26	44.03	1.8
チェコ	32.42	31.30	34.16	44.94	44.28	▲1.5
デンマーク	34.18	34.82	37.61	53.76	46.22	▲14.0
ドイツ	33.70	32.84	36.27	53.18	45.34	▲14.7
エストニア	31.00	29.33	31.64	46.40	43.69	▲5.8
ギリシャ	38.37	38.65	39.47	52.54	52.51	▲0.1
スペイン	31.85	32.21	33.26	45.26	53.05	17.2
フランス	34.06	33.73	35.26	42.38	44.69	5.5
アイルランド	29.83	30.02	34.58	51.44	37.32	▲27.4
イタリア	39.39	36.02	37.16	49.37	51.34	4.0
クロアチア	31.12	32.70	32.83	36.86	30.32	▲17.7
キプロス	57.63	57.86	57.97	60.10	64.23	6.9
ラトビア	29.31	28.08	31.83	47.18	35.67	▲24.4
リトアニア	24.15	24.00	27.56	41.75	31.18	▲25.3
ハンガリー	30.53	29.45	30.98	42.78	44.61	4.3
オランダ	33.26	31.36	34.19	50.29	40.47	▲19.5
オーストリア	35.34	35.96	37.89	48.80	50.11	2.7
ポーランド	30.54	30.15	33.43	47.51	44.34	▲6.7
ポルトガル	30.65	30.27	30.42	41.86	48.81	16.6
ルーマニア	27.48	28.17	28.82	37.74	43.62	15.6
スロベニア	32.62	31.40	32.53	45.51	45.67	0.4
スロバキア	32.95	32.58	32.79	43.72	44.50	1.8
フィンランド	38.33	38.81	39.24	48.94	52.40	7.1
スウェーデン	34.82	35.31	39.06	50.71	42.93	▲15.3
英国	32.13	-	-	-	-	-
EU27/28カ国	33.45	34.15	36.81	50.21	46.96	▲6.5

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2025」

注1：3.7%脂肪分のも。ただしドイツは4.0%脂肪分のも。

注2：2019年までは英国を含む28カ国、20年以降は英国を除く27カ国。

### (イ) 飲用乳小売価格

EU最大の生乳出荷国であるドイツを見ると、2023年の全脂乳(乳脂肪3.5%以上)の小売価格は、1リットル当たり1.40ユーロ(前年比5.3%高)であった(表10)。

表10 ドイツの飲用生乳小売価格の推移

(単位：ユーロ/リットル、%)

区分/年	2019	20	21	22	23	変動率
全脂乳 (乳脂肪1.6%~3.5%)	0.80	0.84	0.89	1.06	1.14	7.5
全脂乳 (乳脂肪3.5%以上)	1.14	1.16	1.19	1.33	1.40	5.3
UHT牛乳 (乳脂肪1.5%以下)	0.70	0.75	0.79	0.95	1.05	10.5

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2022~2025」

### (ウ) バター卸売価格

2023年のバター卸売価格(工場または倉庫渡し)は、前年の大幅な価格上昇の反動や、平均乳脂肪分の増加を受けたバター生産量の増加などにより、前年を大幅に下回った(表11)。

表 1 1 主要国のバター卸売価格の推移

(単位：ユーロ/kg、%)

国/年	2019	20	21	22	23	変動率
フランス	3.93	3.31	4.40	7.04	4.95	▲ 29.7
ドイツ	3.91	3.35	4.23	6.58	4.73	▲ 28.1
オランダ	3.81	3.26	4.23	6.62	4.76	▲ 28.1
イタリア	3.61	3.16	4.06	6.45	4.61	▲ 28.5
ベルギー	3.85	3.32	4.32	6.69	4.87	▲ 27.2

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2025」

注：工場または倉庫渡しの価格で付加価値税は含まない。

(エ) 脱脂粉乳卸売価格

2023年の脱脂粉乳卸売価格(工場渡し)は、前年の世界的な食料品価格の上昇による消費者の買い控えなどを発端とする乳製品価格の下落により、前年を大幅に下回った(表12)。

表 1 2 主要国の脱脂粉乳卸売価格の推移

(単位：ユーロ/kg、%)

国/年	2019	20	21	22	23	変動率
ドイツ	1.95	2.07	2.57	3.51	2.26	▲ 35.6
フランス	2.16	2.22	2.64	3.67	2.47	▲ 32.7
オランダ	2.14	2.20	2.64	3.64	2.42	▲ 33.5
ベルギー	2.17	2.26	2.67	3.71	2.58	▲ 30.5

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2025」

注：工場渡しの価格で付加価値税は含まない。

(オ) チーズ卸売価格

2023年のチーズ卸売価格(工場渡し)は、国・区分ごとに異なるが、ドイツ、イタリアの指標となるチーズ価格はいずれも前年を上回る一方、ポーランドの同価格は前年を下回った(表13)。

表 1 3 主要国のチーズ卸売価格の推移

(単位：ユーロ/kg、%)

国・区分/年	2019	20	21	22	23	変動率
ドイツ エメンタール45%	5.88	5.95	5.98	7.05	7.58	7.5
ベルギー チェダー	3.25	3.12	-	-	-	-
イタリア グラナ・パダーノ	8.50	8.28	8.49	9.38	10.03	6.9
ポーランド エメンタール	3.54	3.51	3.72	5.28	5.10	▲ 3.4

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2025」

注：工場渡しの価格で付加価値税は含まない。

(2) 肉牛・牛肉産業

2023年のEU(加盟27カ国)の牛肉生産量は、世界の生産量の約1割を占めた。EUは気候・地理などに応じて、在来種を含む多種多様な品種の牛(肉用種、乳用種、乳肉兼用種)が飼養されており、牛肉の生産構造や牛肉に供する牛(子牛、経産牛、去勢牛、雄牛など)

は、加盟国によってかなり異なっている。EUの牛肉自給率を見ると、01年には103%であったが、同年のBSE問題の再燃などにより生産量が減少傾向となり、03年以降は牛肉の純輸入地域となった。その後も13年にアイルランドで発覚した牛肉加工製品への馬肉混入事件の影響などで消費者の牛肉離れなどがあったが、BSE対策の徹底などによる輸出量の増加などから、2011年以降、自給率は100%を超えて推移している(表14)。

23年の牛肉生産量は、環境規制の強化や牛肉需要の低下などによる飼養頭数の減少に加え、飼料や燃料などの生産コストの高止まりによって早期出荷が増えた結果、1頭当たりの枝肉重量が減少し前年比3.9%減となった。

表 1 4 牛肉需給の推移

(単位：千トン、%)

区分/年	2019	20	21	22	23	増減率
生産量	6,964	6,903	6,883	6,722	6,462	▲ 3.9
輸入量	387	306	284	328	325	▲ 1.0
輸出量	577	593	567	517	525	1.7
消費量	6,774	6,617	6,600	6,533	6,261	▲ 4.2
1人当たり消費量(kg)	10.6	10.4	10.4	10.2	9.7	▲ 4.7
自給率(%)	106.2	107.8	107.6	105.9	106.7	0.7

資料：欧州委員会「EU agricultural markets short-term outlook - summer 2025」

注1：枝肉換算ベース。

注2：輸入量および輸出量は生体牛を除く。

注3：EU27カ国

ア 主な政策

(ア) 公的買い入れ

2014年以降の新たなCAPでは、一加盟国または一加盟国の一部地域の市場のR3(肉付きおよび脂肪量ともに中位の格付け)雄牛の枝肉平均価格が、1トン当たり1890ユーロ(枝肉参考価格の85%)の介入価格を下回った場合、公的買い入れが検討される。ただし、これまで公的買い入れは行われていない。

(イ) 民間在庫補助(調整保管)

EUでは、R3の枝肉参考価格を1トン当たり2224ユーロと定め、EU平均市場価格がこの参考価格を下回り、それが継続する可能性がある場合、一定量を一定期間、在庫として保管する業者に対し、保管経費の補助を行うことが検討される。2020年には、COVID-19対策として、牛肉に対し民間在庫補助が実施され、

外食産業の営業規制により特に需要が低下したヒレやサロインを含む月齢8カ月以上の枝肉の後部である後四分体（生鮮または冷蔵）を対象に発動した。なお、23年は実施されていない。

(ウ) 直接支払い

2003年のCAP改革により、生産にリンクした直接支払いは原則廃止されたが、加盟国単位で、生産維持を目的に生産とリンクした直接支払いを実施することは可能とされている。

(エ) 輸出補助金

CAPの下で、例外的に輸出補助金の使用が認められているものの、近年、牛肉での輸出補助金の発動は行われていない。

(オ) BSE関連対策

反すう動物（牛、羊、ヤギ）由来の動物性たんぱく質（コラーゲンなどを除く）の飼料利用の禁止、食肉に供される牛からの特定危険部位の除去などの、各種のBSE対策が実施されている。また、講じられる対策の有効性を検証するため、BSEモニタリング検査などが実施されている。

イ 肉牛の生産動向

(ア) 牛飼養経営体数

EUの牛飼養経営体数（乳用種を含む）は、小規模層を中心に減少傾向にあり、2020年は前回調査（16年）から22%減少の150万戸となった（表15）。また、大規模化の進展により、1戸当たりの飼養頭数は前回調査から23.1%増加の50.9頭となった。

表15 (乳用種を含む) 飼養経営体数、飼養頭数および1戸当たりの飼養頭数の推移

(単位：千戸、千頭、頭/戸、%)

区分/年	2010	13	16	20	増減率
牛飼養経営体数	2,535	2,195	1,925	1,503	▲22.0
飼養頭数	77,935	78,019	79,698	76,551	▲3.9
1戸当たり飼養頭数	30.7	35.5	41.4	50.9	23.1

資料：欧州委員会「Eurostat」

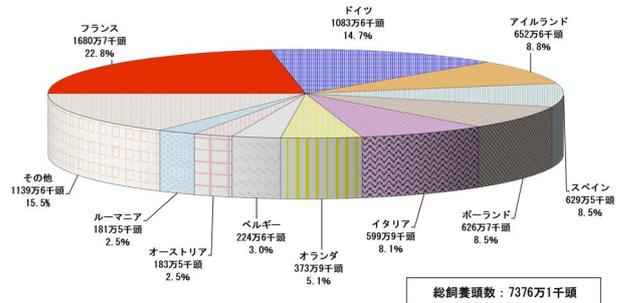
注1：飼養頭数は、12月末時点のもの。

注2：経営体数調査は、2010、2013、2016、2020年に実施されている。

(イ) 飼養頭数

2023年12月時点の牛飼養頭数（乳用種を含む）は、前年比1.4%減の7376万頭であった（図8）。飼養頭数第1位はフランス（1681万頭）、2位はドイツ（1084万頭）であり、この2カ国でEU全体の約4割を占める。第3位はアイルランド（653万頭）となったが、4位以下スペイン、ポーランド、イタリアとは僅差である。種類別の牛飼養割合などは、加盟国間で違いがある（図9）。

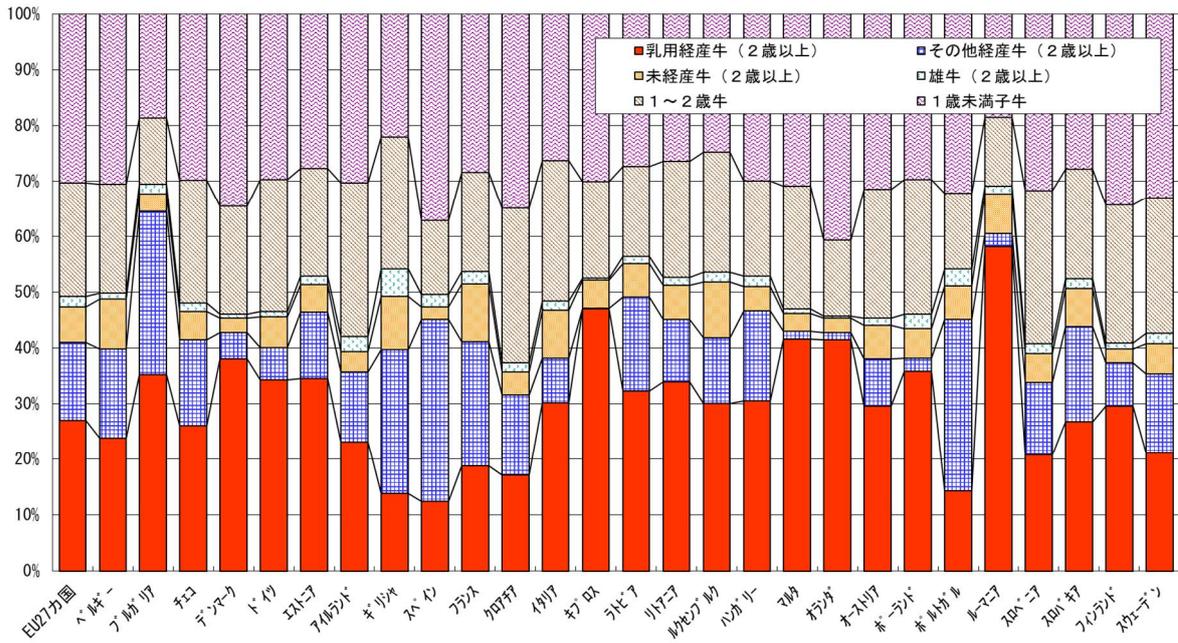
図8 国別牛飼養頭数（2023年12月）



資料：欧州委員会「Eurostat」

注：EU27カ国。

図9 国別種類別牛飼養割合（2023年12月）



資料：欧州委員会「Eurostat」

## ウ 牛肉の需給動向

### (ア) 牛肉生産量

2023年は、飼養頭数の減少に加え、飼料や燃料などの生産コストの高止まりによって早期出荷が増加したことで、1頭当たりの枝肉重量が減少した。このため、同年の牛肉生産量は646万トン（前年比3.9%減、枝肉換算）となった（表14）。

### (イ) 輸入および輸出

輸入は、ガット・ウルグアイラウンド合意などにに基づき、さまざまな関税割当や近隣国との特惠制度が設けられている。2023年のEU域外からの輸入量は、英国の牛肉生産量が減少傾向にあることや、域内の牛肉価格高騰による需要低下の影響により、前年比1.0%減の33万トン（枝肉換算）となった（表14）。主な輸入先は、英国、ブラジル、アルゼンチンなどである。

輸出は、01年のBSE問題や02年の口蹄疫の発生により、一時的にEU産牛肉の禁輸措置が講じられたことで長年にわたり減少傾向で推移してきた。また、14年に、最大の輸出先であったロシアによるEU産農畜産物の禁輸措置が講じられたことで伸び悩んでいたが、近年は、アジアや中東、北アフリカ向け輸出が増加した。

23年の牛肉輸出量は、EU産牛肉価格の高止まりにより冷凍牛肉輸出量が減少したが、22年にEU産牛肉の輸入を再開したトルコ向けを中心に冷蔵牛肉輸出量が増加したことから、前年比1.7%増の53万トンとなった（表14）。

### (ウ) 消費

2023年の消費量は、EU域内の牛肉供給量の減少により牛肉価格が高値で推移したことから、前年比4.2%減の626万トンと減少した。1人当たり消費量も同様の傾向となり、23年は同4.7%減の9.7キログラムとなった（表14）。

## エ 肉牛・牛肉の価格動向

2023年の牛枝肉卸売価格は、EU域内の牛肉生産量および輸入量の減少により、年間を通じて高値で推移し、100キログラム当たり雄牛で491.0ユーロ、去勢牛で512.1ユーロとなった（表16）。

表16 牛枝肉卸売価格の推移

(単位：ユーロ/100kg、%)

年/区分	牛枝肉卸売価格			
	雄牛		去勢牛	
		変動率		変動率
2019	362.6	▲3.7	377.4	▲6.1
20	354.6	-	366.7	-
21	386.9	9.1	405.4	10.6
22	487.3	25.9	489.6	20.8
23	491.0	0.8	512.1	4.6

資料：欧州委員会「Meat market observatory」

注：2019年まではEU27カ国+英国、2020年からは英国を除くEU27カ国。

### (3) 養豚・豚肉産業

EUの豚肉自給率は、2022年まで4年連続で120%を超えていたものの、生産量の減少により23年には117%となったが、それでもなお世界の豚肉生産量の約2割(23年)を占める純輸出地域である。中でも、わが国の冷凍豚肉の主要な輸入先であるスペインは、EU全体の輸出量の3割以上を占める。EUでは、加盟国間で差があるものの、全体的に見ると食肉消費量に占める豚肉の割合は、牛肉、鶏肉、羊肉に比べ最も大きい。

EUの豚肉生産は、07年、12年の飼料価格高騰や規制強化などの影響を受け、かつては増産と減産を繰り返していた。11年および12年は、13年のアニマルウェルフェアに関する規制の完全施行に対応するため、生産量が減少した。この規制の内容は、妊娠豚のストール飼いの禁止、繁殖母豚の飼養面積の拡張のための豚舎の増改築など、各種対応を必要とするものであった。これにより、対応できない小規模農家では経営の中止や、繁殖、肥育の分業化、統廃合などが行われたりするなど、業界全体で生産構造の変化の動きが活発になった。近年は、アニマルウェルフェアに関する基準の厳格化や環境規制の強化、生産コストの高騰などにより減産傾向となっている。

#### ア 主要な政策

##### (ア) 民間在庫補助(調整保管)

EUでは、標準的な豚(クラスEまたはR)の枝肉参考価格を1トン当たり1509.39ユーロと定め、EU平均市場価格が参考価格を下回り、それが継続する可能性がある場合、一定量を一定期間、在庫として保管する業者に対し、保管経費の補助を行うことが検討される。

2015年3月には、前年1月のロシアによるEU産農畜産物の禁輸措置に伴い需給が緩和したことから、民間在庫補助が実施され、約6万トンの豚肉が市場から隔離された。また、16年1月には、14年から続くロシアによるEU産農畜産物の禁輸措置の影響やEU域内の生産増などによる需給緩和により約9万トンの豚肉が隔離された。さらに、22年3月には、主要輸出先である中国向けの減少やアフリカ豚熱の拡大、ロシアによるウクライナ侵攻により需要が緩和されたことから、約5万トンの豚肉が隔離された。なお、23年は実施されていない。

##### (イ) 輸出補助金

CAPの下で、例外的に輸出補助金の使用が認められているものの、2008年以降は、輸出補助金の発動はない。

#### イ 肉豚の生産動向

##### (ア) 養豚経営体数

養豚経営体は、EU全土に分布しているものの、飼養頭数は、飼料価格の高騰、アニマルウェルフェアの規制強化などさまざまな要因を背景として小規模層を中心に減少し、大規模化や繁殖・肥育の分業化が進む傾向にある。2020年の養豚経営対数は、前回調査(16年)から40%減少となる118万戸となった(表17)。

表17 養豚経営体数、飼養頭数および1戸当たり飼養頭数の推移

(単位：千戸、千頭、頭、%)

区分/年	2010	13	16	20	増減率
養豚経営体数	2,873	2,181	1,956	1,181	▲39.6
飼養頭数	139,394	141,859	142,650	145,919	2.3
1戸当たり飼養頭数	48.5	65.0	72.9	123.5	69.4

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：飼養頭数は、12月末時点のもの。

注2：経営体数調査は、2010、2013、2016、2020年に実施されている。

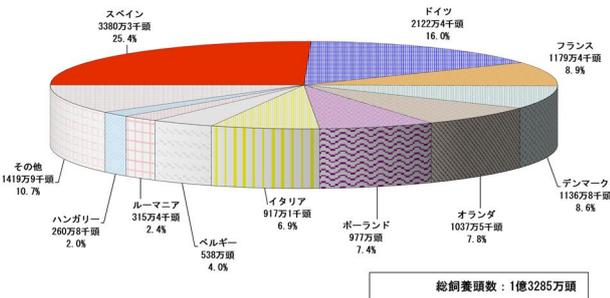
##### (イ) 飼養頭数

2023年12月時点の豚飼養頭数は、1億3285万頭となった(図10)。

養豚経営体は、EU全土に分布しているものの、飼養頭数は加盟国間で大きな差があり、スペイン、ドイツ、フランス、デンマーク、オランダ、ポーランド、イタリ

アの7カ国でEU全体の約8割を占めている。中でもスペインとドイツの上位2カ国で、総飼養頭数の約4割を占める。首位のスペインは21年まで9年連続で増加となったが、中国向け輸出の減少や豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）の流行による産子数の減少により22年には前年比減（1.1%減）に転じ、さらに23年は同0.8%減となった。2位のドイツはアフリカ豚熱の発生による中国などの主要輸出先への輸出停止などにより、減少傾向で推移している。

図10 国別豚飼養頭数（2023年12月）



資料：欧州委員会「Eurostat」  
注：EU27カ国。

## ウ 豚肉の需給動向

### （ア）豚肉生産量

2023年の豚肉生産量は、環境やアニマルウェルフェアに関する厳しい規制、EU域内で継続するアフリカ豚熱（ASF）の発生、EU域内外での需要の減少などを受け前年比6.5%減の2083万トン（枝肉換算）と過去10年で最低となった（表18）。国別に見ると、EU加盟27カ国すべての国で減産となった。

表18 豚肉需給の推移

（単位：千トン、%）

区分/年	2019	20	21	22	23	増減率
生産量	22,996	23,219	23,615	22,277	20,829	▲6.5
輸入量	162	159	97	121	108	▲10.7
輸出量	4,177	4,944	4,752	3,993	3,017	▲24.4
消費量	18,981	18,434	18,960	18,406	17,921	▲2.6
1人当たり消費量（kg）	33.2	32.2	33.2	32.0	31.0	▲3.1
自給率（%）	121.4	126.1	124.8	121.3	116.5	▲3.9

資料：欧州委員会「EU agricultural markets short-term outlook summer 2025」

注1：枝肉換算ベース。  
注2：生産量は加工などに伴う損耗を考慮した数値。  
注3：輸出入量は生体豚を除く。  
注4：EU27カ国。

### （イ）輸入および輸出

2023年のEU域外への輸出量（枝肉換算）は、減産に伴う価格上昇によるEU産豚肉の価格競争力低下に加え、ASF発生による輸出停滞やアジア諸国を中心とした需要減などを背景に、前年比24.4%減の302万トンとなった（表18）。主な輸出先は、中国、英国、日本、韓国であり、21年は中国のみで全体の4割を超えたものの、22年は3割程度に、23年は3割弱に減少した。また、EU域外への主な輸出国はスペイン、デンマーク、オランダとなり、これら上位3カ国で輸出量の全体の7割を占める。その他の主要輸出国のうち、ドイツではASFの発生が確認されたことで、中国をはじめ主な輸出先がドイツからの豚肉の輸入を停止したため、21年以降輸出量は大幅に減少している。

23年のEU域外からの輸入量（枝肉換算）は、22年に増加した英国からの輸入が大幅に減少し、前年比10.7%減の11万トンとなった。

### （ウ）消費

2023年の消費量は、価格の高騰を背景に比較的安価な鶏肉への需要が高まったため、前年比2.6%減の1792万トンとなった。

1人当たり消費量も同様に、同3.1%減の31.0キログラムとなった。

## エ 豚肉の価格動向（豚肉の市場価格）

豚枝肉卸売価格は、加盟国の代表的な市場の加重平均価格をベースとして算出される。

2023年の枝肉卸売価格は、100キログラム当たり227.7ユーロと前年比23.7%高となった（表19）。豚肉生産量の減少を背景に、歴史的な高値が継続した。

表19 豚枝肉卸売価格の推移

（単位：ユーロ/100kg、%）

年/区分	豚枝肉卸売価格					
	EU		ドイツ		デンマーク	
	変動率		変動率		変動率	
2019	169.1	19.0	177.5	21.6	164.4	28.4
20	160.1	-	162.7	▲8.4	172.6	5.0
21	143.0	▲10.7	139.9	▲14.0	147.3	▲14.6
22	184.1	28.8	187.6	34.1	163.5	11.0
23	227.7	23.7	235.7	25.7	193.7	18.4

資料：欧州委員会「Meat Market Observatory」

注：2019年まではEU27カ国+英国、2020年からは英国を除くEU27カ国。